



### 認知症について

「認知症を完全に予防することはできません。誰にでもなる可能性があるのです。これは、昨年亡くなられた認知症治療で著名な長谷川和夫医師の言葉です。認知症は高齢者に多く見られる病態の一つです。現在のところ、薬の服用で治るものはありませんが、症状の進行を抑えることは可能です。」

### 年齢階級別の認知症有病率

年齢(歳)	全体 (%)	男性 (%)	女性 (%)
65-69	2.9	2.8	3.8
70-74	4.1	3.9	4.9
75-79	13.6	11.7	14.4
80-84	21.8	16.8	24.2
85-89	41.4	35.0	43.9
90-94	61.0	49.0	65.1
95以上	79.5	50.6	83.7

令和元年の厚生労働省老健局「認知症施策の総合的な推進について」によると、65歳以上の認知症の方は約602万人に達していると言われています。65歳以上の人口の約6人に1人の割合になります。平均寿命の伸びにより2025年には、65歳以上の5人に1人が認知症を発症すると考えられています。ここで、「認知症を解頂きたいのは、誰にでもなる可能性がある」という事と、認知症の発症は長生きの証ともいえるということとです。

### 生活圏域での課題

認知症への理解は、高齢者が生活する地域全体の課題となっています。政府も更なる高齢化を見据え、「地域共生社会」という概念を打ち出しています。「それは、『暮らしにおける人と人とのつながりが弱まる中、人生における様々な困難に直面した場合でも、誰もが役割を持ち、お互いが配慮し存在を認め合い、そして時に支え合うことで、孤立せず社会としていくことが求められる』と表現されています。住民一人一人が関心を持ち理解することが必要です。」

### 認知症の原因

認知症の原因はその種類により異なります。多くの原因は、脳に特定のたんぱく質が異常にたまってしまふことにより神経細胞が死んでしまい、脳の機能が低下することになると考えられています。

### 認知症の症状

今まで出来ていたことが出来なくなる「中核症状」と、中核症状を起因とする「周辺症状」に分けられます。中核症状には、朝食を食べたことを忘れる、日にちや時間、場所がわからなくなる、服の着方がわからなくなる、スムーズに物事を進められない等があり、すべての認知症の方にみられます。

中核症状の代表は記憶障害です。最近のことが覚えられず、同じことを何度も聞いたり、病気が進むと昔の経験や学習した記憶も失われます。他にも、今日がいつか、どこにいられたか、他にも、今日がいつか、今「遂行機能障害」(順序立てて作業(料理など)ができない)、「遂行機能障害」(見たものが何かかわからない)、「(ご飯を見ても食事とわかわからない)」「失事」などがあります。そして出来なくなりました。対して様々な言い訳をするようになります。



中核症状が出てくると、今まで出来た事ができなくなったり、物忘れがひどくなったり、周囲に對して怒鳴り散らしたりする人もいます。居場所が分からず徘徊する事例もみられます。「物を盗られた」などの妄想が出ることもあります。睡眠障害を伴うと昼夜逆転し、夜になると更に妄想や幻覚などが加わって出やすくなります。このような症状がゆっくりと進行していきますが、時間帯や日によって、また接する人によって症状に大きな違いがみられます。

### 主要な認知症の種類

・アルツハイマー型認知症(約60%)  
脳にアミロイドベータという物質が沈着して、神経細胞の障害が起こります。物忘れで発症することが多く、新しいことを覚えられなくなり、管理や家事が出来なくなります。

・血管性認知症(約20%)  
脳梗塞や脳出血が原因でなります。病変が小さくても、再発を繰り返すことにより認知症になることもあります。意欲低下が目立ち、脳梗塞(脳出血)でみられるような歩行障害や言語障害、嚥下障害をしばしば伴います。

・レビー小体型認知症(約10%)  
脳にアルファシヌクレインという物質が沈着して、神経細胞の障害が起こります。存在しない虫や人物が見えたりする幻視が特徴的な症状です。ほかに嗅覚低下、睡眠中に大声を出す、体を激しく動かす等の異常行動、動作が鈍くなる、小刻み歩行等があります。

・前頭側頭葉変性症  
前頭側頭葉変性症は、堂々と万引きする、関心がなくなると勝手にその場から出ていく、毎日同じものを食べる等、人格や行動の変化を特徴とするタイプ、言語がしゃべれなくなるタイプ、言葉の意味がわからなくなるタイプなどがあります。



アルツハイマー型



血管性



レビー小体型

### 正しく怖れる

最後までお読み頂きありがとうございます。認知症という「避けたい」という意識が先行して、正面から受け止められない方が多いのが現実ですが、これを機会に理解を深めて頂ければ幸いです。個々の症状に合わせた対処法など多くの書籍もご紹介します。正しく怖れ、正しく学ぶことが必要だと思われませう。

